

# 青森県経済統計報告

平成 23 年 11 月 2 日  
企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成 23 年 10 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,363,034 人（対前月 553 人 減少）
自然動態	443 人減少（出生者数 781 人、死亡者数 1,224 人）
社会動態	110 人減少（転入者数 1,470 人、転出者数 1,580 人）

## 2 本県の経済動向（平成 23 年 8 月・9 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、東日本大震災による影響が残っているが、生産面に回復の動きが続いているほか、消費面の一部が持ち直してきている。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の 平成 23 年 8 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済 … 2  
生産動向 指数が 105.6 で、前月比 3.6%の上昇となり、2 ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 102.2 で、前年同月比 4.3%の上昇となり、6 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-2) 雇用情勢 平成 23 年 8 月の定期給与は 221,997 円で前年同月比 0.4%増となった。 … 3  
総実労働時間は 157.8 時間で前年同月比 2.2%増、所定外労働時間は 10.1 時間で前年同月比 5.2%増となった。  
平成 23 年 9 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.43 倍で、前月と同数値となった。
- (2-3) 物 価 平成 23 年 9 月の青森市消費者物価指数（平成 22 年=100）は、総合指数が … 4  
99.9 となり、前月比 0.4%の下落、前年同月比 0.4%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 平成 23 年 8 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 160 億 6,400 万円 … 5  
で前年同月比 0.3%増となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 0.2%減となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。  
平成 23 年 9 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 4,051 台で、前年同月比 2.1%増となり、13 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-5) 住宅建設 平成 23 年 9 月の新設住宅着工戸数は 380 戸で、前年同月比 24.9%減とな … 6  
り、3 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 電 力 平成 23 年 9 月の大口電力使用量は 1 億 9,582 万 kWh で、前年同月比 9.5% … 6  
使用量 減となり、8 ヶ月連続で前年同月を下回った。

### （3）景気動向指数 C I（平成 23 年 8 月分）…………… 7

先行指数	108.5（前月を 2.4 ポイント下回り、5 か月ぶりに下降した）
一致指数	107.4（前月を 0.3 ポイント下回り、4 か月ぶりに下降した）
遅行指数	95.5（前月を 3.3 ポイント上回り、2 か月ぶりに上昇した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 23 年 10 月期）…………… 8

3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 49.0（前期比 5.2 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る）  
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I …… 48.5（前期比 5.1 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る）

# 1 青森県の推計人口（平成23年10月1日現在）

## 【概況】

平成23年10月1日現在の本県推計人口は、1,363,034人で、前月に比べ553人の減少となった。

## ○自然動態

出生者数が781人、死亡者数が1,224人で、443人の減少となった。

## ○社会動態

転入者数が1,470人、転出者数が1,580人で、110人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-409	-487	810	1,297	78	1,571	1,493
22.11.1	1,372,747	645,824	726,923	-0.043%	-592	-425	820	1,245	-167	1,373	1,540
22.12.1	1,372,019	645,415	726,604	-0.053%	-728	-689	765	1,454	-39	1,216	1,255
23.1.1	1,371,433	645,190	726,243	-0.043%	-586	-575	742	1,317	-11	1,151	1,162
23.2.1	1,370,617	644,810	725,807	-0.059%	-816	-759	830	1,589	-57	1,057	1,114
23.3.1	1,369,743	644,309	725,434	-0.064%	-874	-620	681	1,301	-254	1,011	1,265
23.4.1	1,365,928	642,186	723,742	-0.279%	-3,815	-782	797	1,579	-3,033	2,884	5,917
23.5.1	1,365,007	641,709	723,298	-0.067%	-921	-600	738	1,338	-321	3,906	4,227
23.6.1	1,364,626	641,497	723,129	-0.028%	-381	-528	879	1,407	147	2,223	2,076
23.7.1	1,364,245	641,256	722,989	-0.028%	-381	-406	853	1,259	25	1,503	1,478
23.8.1	1,363,886	641,080	722,806	-0.026%	-359	-418	796	1,214	59	2,006	1,947
23.9.1	1,363,587	640,964	722,623	-0.022%	-299	-450	877	1,327	151	2,210	2,059
23.10.1	1,363,034	640,659	722,375	-0.041%	-553	-443	781	1,224	-110	1,470	1,580

9月中の人口動態の推移

（単位：人）

年 月		平13. 9	14. 9	15. 9	16. 9	17. 9	18. 9	19. 9	20. 9	21. 9	22. 9	23. 9
自然 動態	出生者数	1, 030	1, 046	1, 040	986	942	940	765	905	807	810	781
	死亡者数	941	1, 060	1, 139	1, 106	1, 091	1, 086	1, 042	1, 167	1, 219	1, 297	1, 224
	自然増減数	89	-14	-99	-120	-149	-146	-277	-262	-412	-487	-443
社会 動態	県外からの 転入者数	1, 643	1, 758	1, 842	1, 618	1, 738	1, 590	1, 710	1, 688	1, 538	1, 571	1, 470
	県外への 転出者数	1, 758	1, 935	2, 082	2, 012	2, 131	1, 872	2, 020	1, 828	1, 678	1, 493	1, 580
	社会増減数	-115	-177	-240	-394	-393	-282	-310	-140	-140	78	-110
増減数計		-26	-191	-339	-514	-542	-428	-587	-402	-552	-409	-553

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年10月1日現在の人口は、平成22年国勢調査人口（確定値）を用いているため、9月1日現在の推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※3 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※4 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※5 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

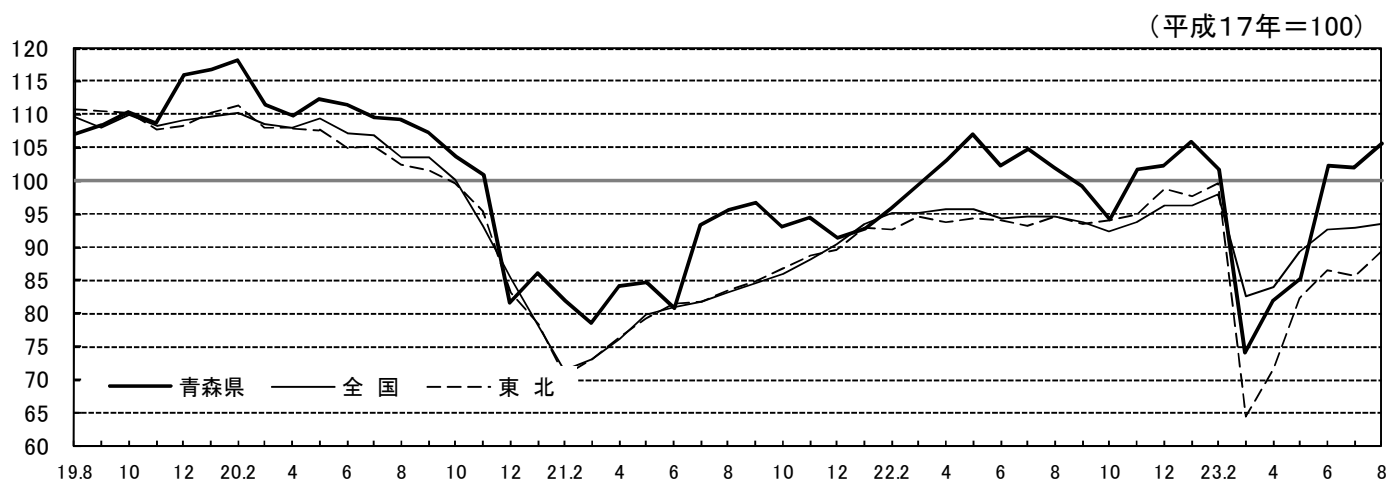
### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 製造業の生産

平成23年8月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が105.6で、前月比3.6%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は102.2で、前年同月比4.3%の上昇となり、6ヶ月ぶりで前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、電気機械工業、その他製品工業などが低下し、鉱工業全体では3.6%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

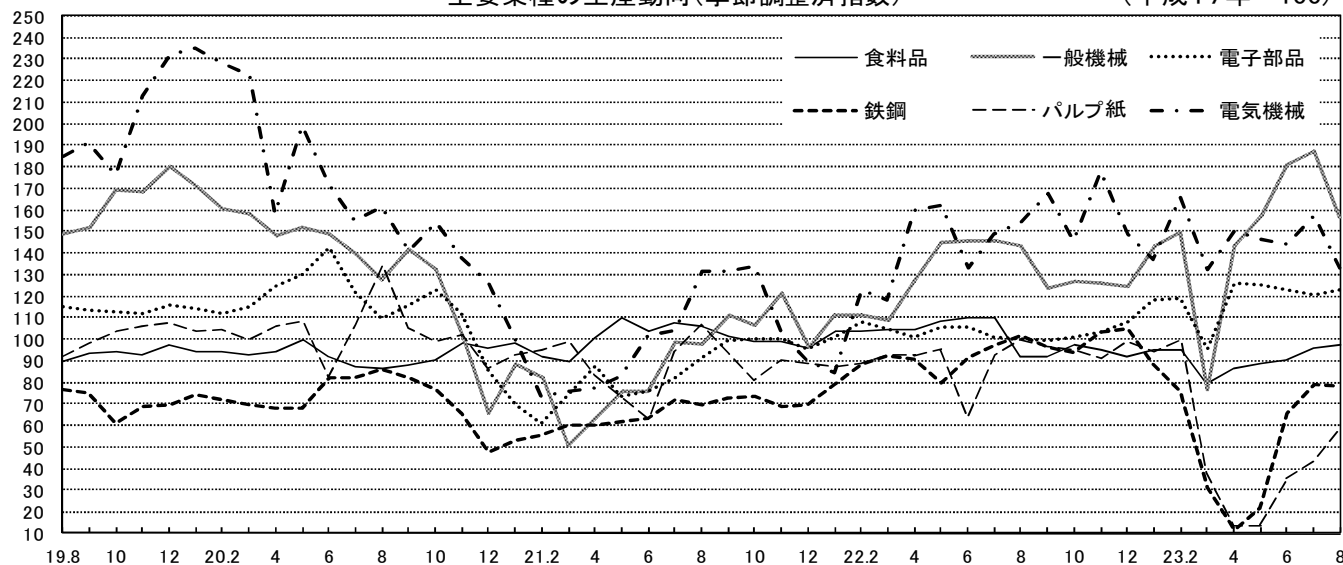


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 3.6%

プ ラ ス			マ イ ナ ス		
業 種	前月比(%)	寄与率(%)	業 種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	81.7	150.1	一般機械工業	-16.2	-179.4
パルプ・紙・紙加工品工業	35.6	59.1	電気機械工業	-15.8	-64.7
金属製品工業	14.1	31.6	その他製品工業	-32.3	-6.5
精密機械工業	23.7	25.1	鉄鋼業	-1.6	-6.2
食料品工業	2.0	20.2	家具工業	-18.7	-3.8

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



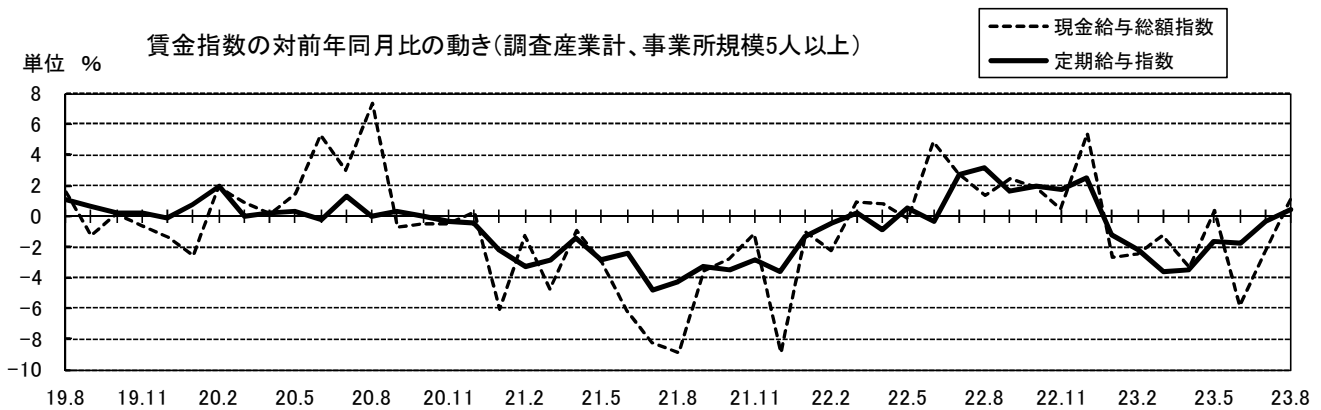
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成23年8月の定期給与は221,997円で定期給与指数(平成17年=100)では96.5となり、前年同月比0.4%増(現金給与総額236,204円、現金給与総額指数86.6、前年同月比1.2%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.9となった。

総実労働時間は157.8時間で、総実労働時間指数は99.1となり、前年同月比2.2%増となった。このうち、所定外労働時間は10.1時間で、所定外労働時間指数は102.0となり、前年同月比5.2%増となった。

平成23年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.43倍で、前月と同数値となった。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

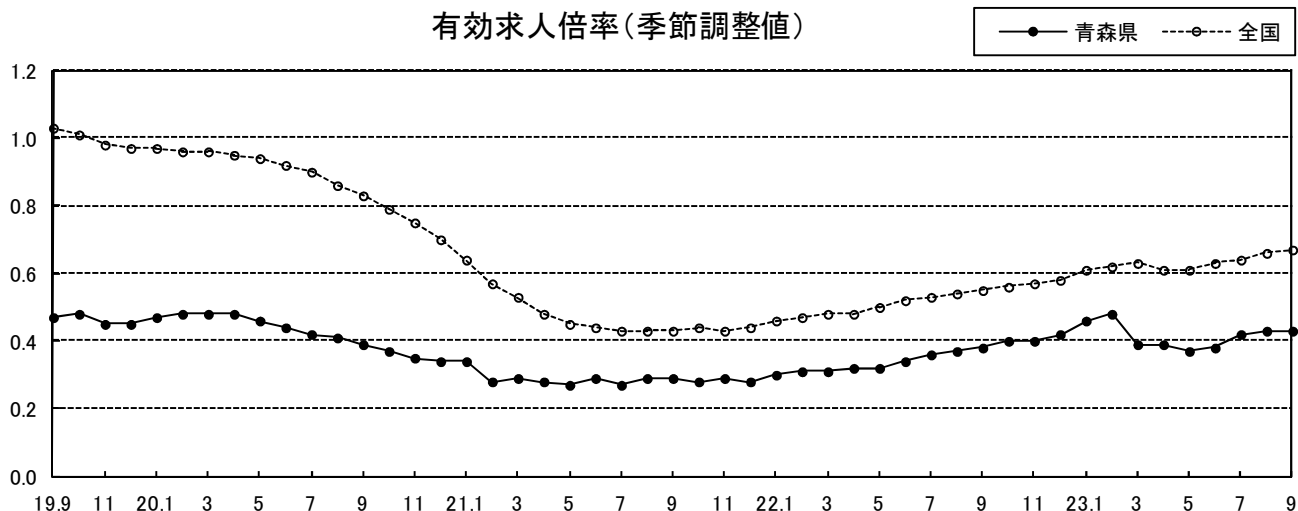
	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	236,204 円	274,041 円	86.6	82.7	1.2 %	-0.4 %
定期給与	221,997 円	261,513 円	96.5	96.8	0.4 %	-0.3 %
特別給与	14,207 円	12,528 円	—	—	—	-0.1 %
総実労働時間	157.8 時間	144.9 時間	99.1	96.1	2.2 %	0.4 %
所定内労働時間	147.7 時間	135.3 時間	98.9	96.6	1.9 %	0.6 %
所定外労働時間	10.1 時間	9.6 時間	102.0	90.6	5.2 %	-2.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしています。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成23年9月の青森市消費者物価指数（平成22年=100）は、総合指数が99.9となり、前月と比べ0.4%の下落、前年同月と比べ0.4%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.0となり、前月と比べ0.4%の下落、前年同月と比べ0.6%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は98.7となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.5%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.4%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、諸雑費などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

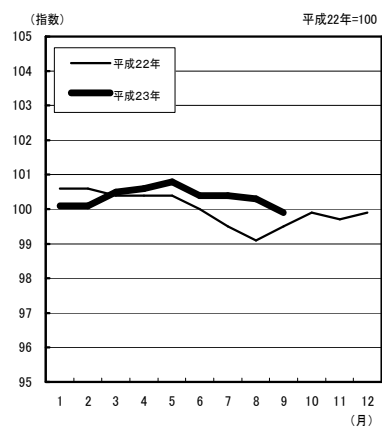


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

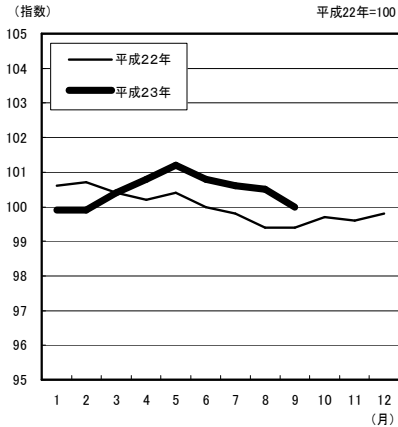
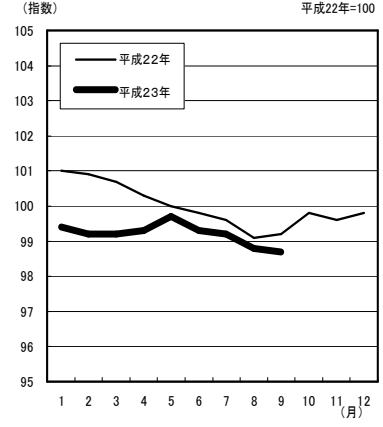


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家・具・被服・履物	家具・被服・履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	99.9	100.0	100.0	98.7	98.9	97.6	99.3	107.4	94.8	101.0	99.5	101.5	96.6	94.8	103.5
前月比(%)	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 0.6	0.5	0.0	▲ 0.8	▲ 1.4	3.6	0.1	▲ 0.8	0.0	▲ 1.3	▲ 0.2
寄与度	—	▲ 0.42	▲ 0.40	▲ 0.07	▲ 0.16	0.02	0.00	▲ 0.09	▲ 0.05	0.13	0.01	▲ 0.10	0.00	▲ 0.12	▲ 0.01
前年同月比(%)	0.4	0.6	0.6	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 3.6	▲ 0.6	6.9	▲ 2.9	▲ 0.9	▲ 0.3	2.1	0.4	▲ 3.7	5.3
寄与度	—	0.60	0.51	▲ 0.35	▲ 0.20	▲ 0.16	▲ 0.13	0.68	▲ 0.10	▲ 0.03	▲ 0.02	0.28	0.01	▲ 0.37	0.32

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

資料: 県統計分析課「消費者物価指数月報」

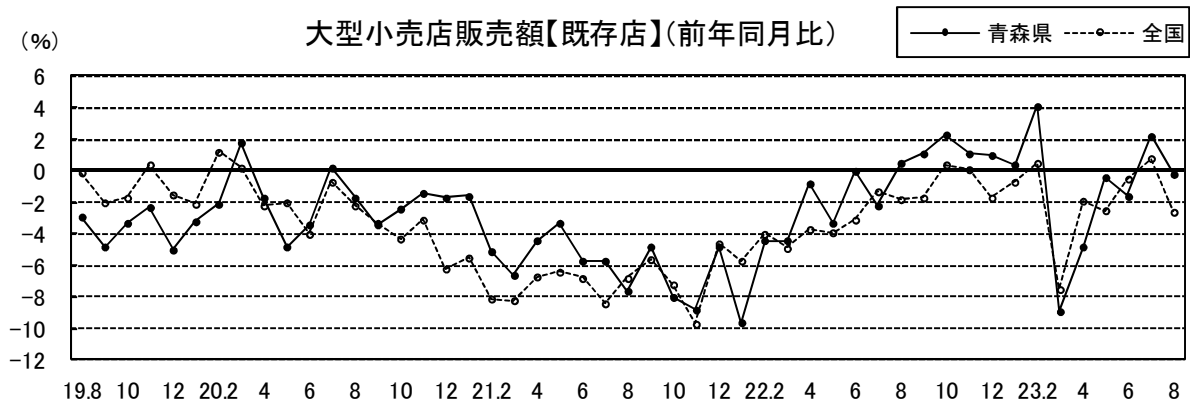
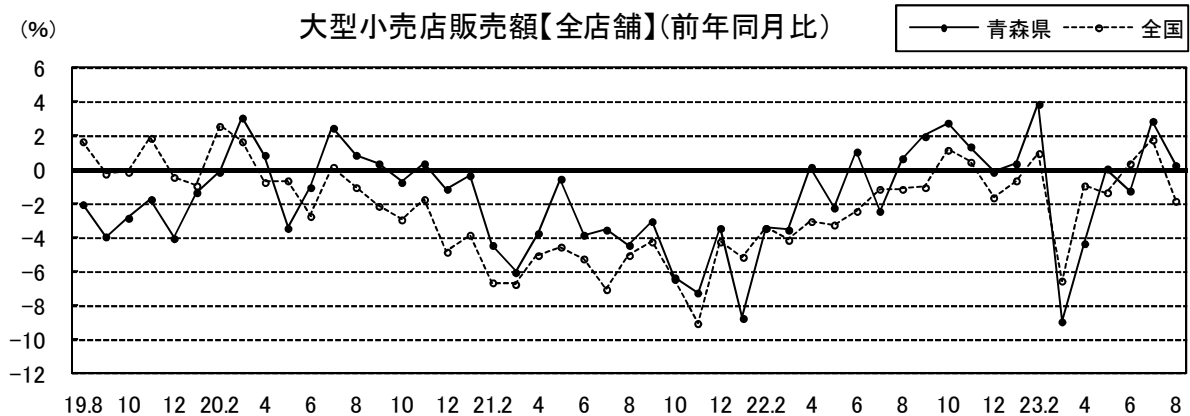
※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前年比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

## (2-4) 個人消費

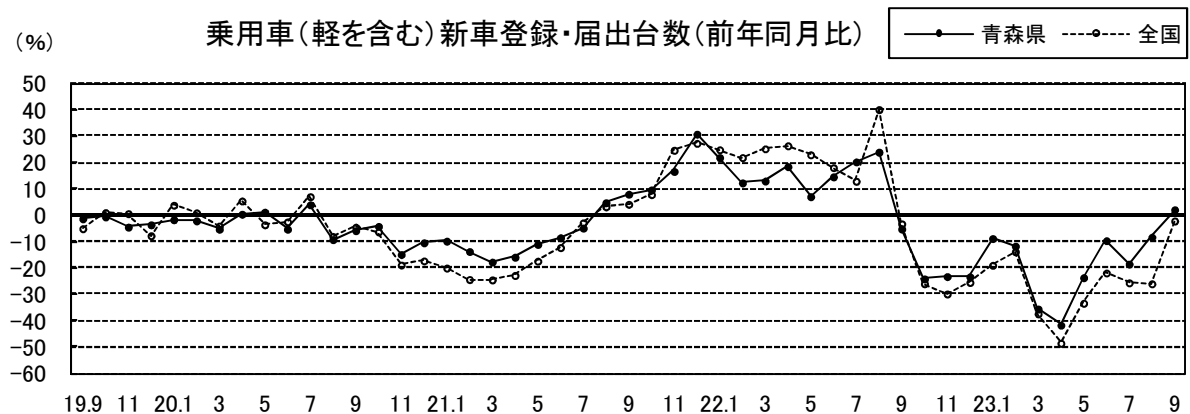
平成23年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが160億6,400万円で前年同月比0.3%増となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは0.2%減となり、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。衣料品などが低調であったことによる。

平成23年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,051台で、前年同月比2.1%増となり、13ヶ月ぶりに前年同月を上回った。軽乗用車が減少したものの、普通車、小型車が増加したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

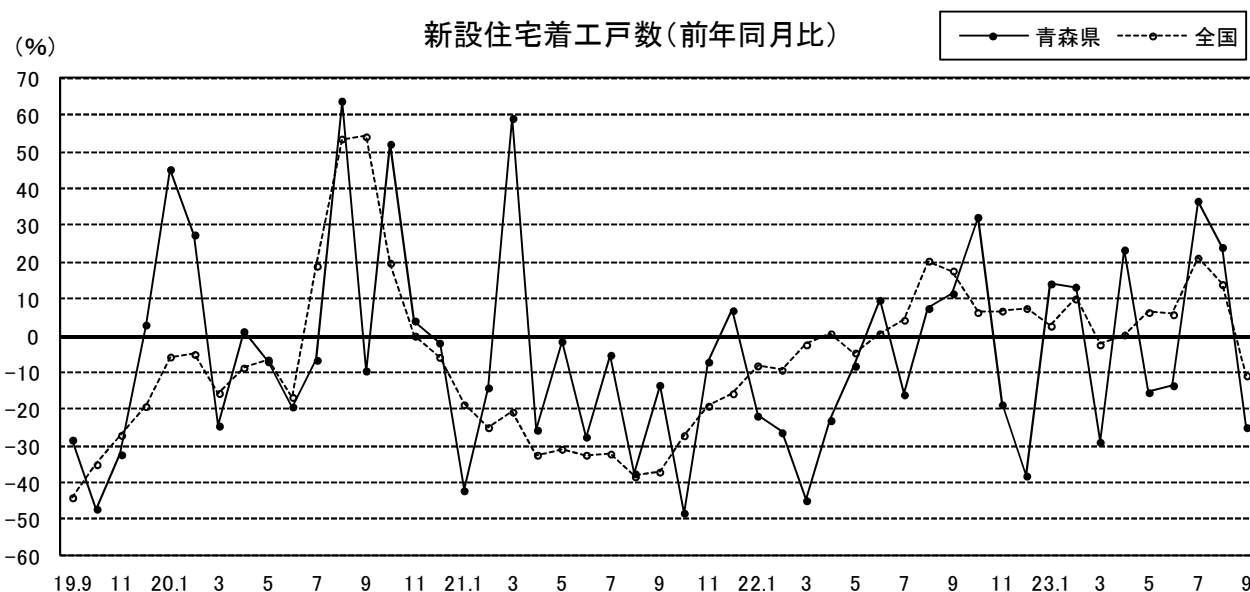
- \* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。  
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

## (2-5) 住宅建設

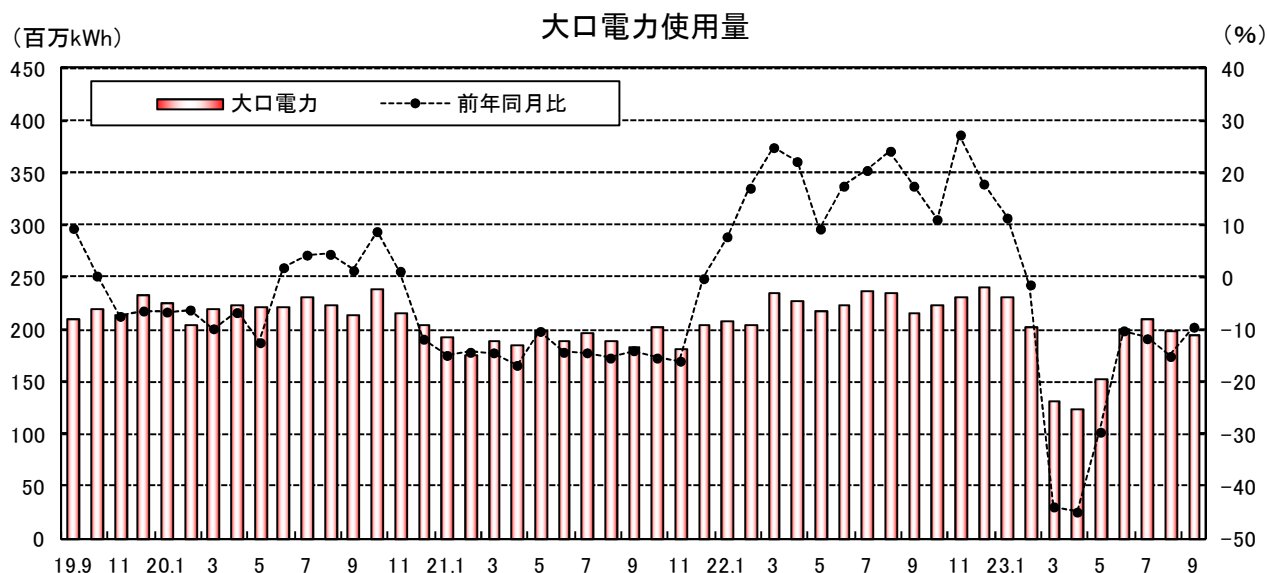
平成23年9月の新設住宅着工戸数は380戸で、前年同月比24.9%減となり、3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。分譲住宅が増加したものの、持家、貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

## (2-6) 電力使用量

平成23年9月の大口電力使用量は1億9,582万kWhで、前年同月比9.5%減となり、8ヶ月連続で前年同月を下回った。東日本大震災の影響により、製造業を中心に減少したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

### (3) 青森県景気動向指数

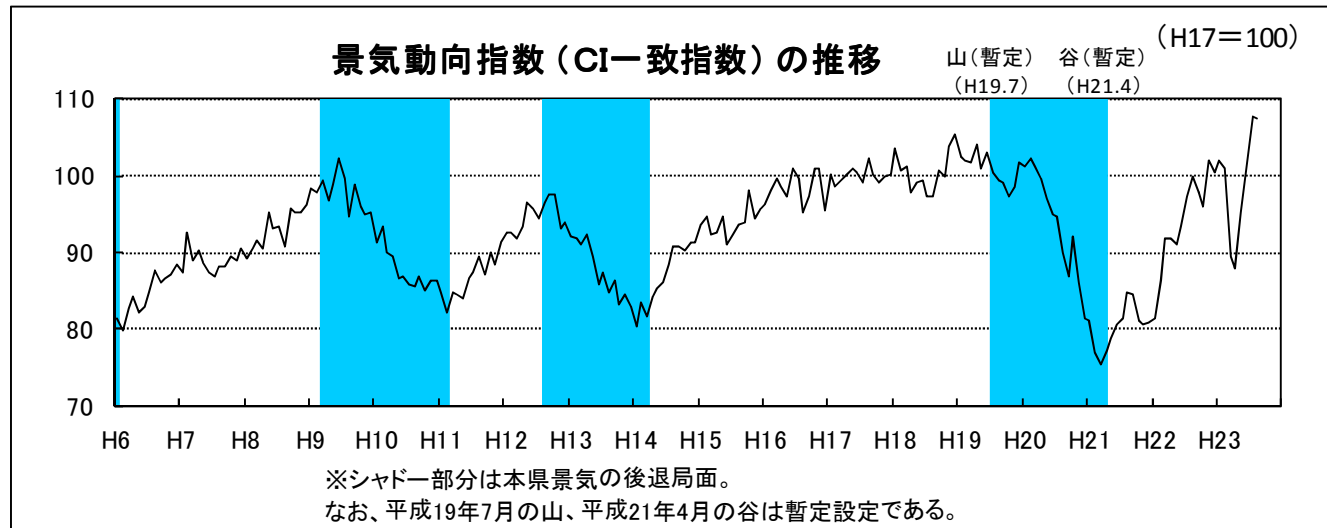
平成23年8月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数108.5、一致指数107.4、遅行指数95.5となった。

先行指数は、前月を2.4ポイント下回り、5か月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を0.3ポイント下回り、4か月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を3.3ポイント上回り、2か月ぶりに上昇した。

8月の一致指数は、生産、消費関連等の指標がマイナスになったことから、下降した。



#### ●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先 行 系 列					
乗用車新車登録届出台数	2.54	2 か月ぶり	新規求人倍率（全数）	-2.48	3 か月ぶり
生産財生産指数	0.47	2 か月ぶり	建築着工床面積	-1.22	3 か月ぶり
企業倒産負債額	0.32	2 か月連続	所定外労働時間指数	-0.92	2 か月ぶり
			入職率（製造業）	-0.73	3 か月ぶり
			中小企業景況D I	-0.37	5 か月ぶり
			新設住宅着工床面積	-0.16	3 か月ぶり
一 致 系 列					
海上出入貨物量（八戸港）	2.03	4 か月連続	電気機械生産指数	-2.03	2 か月ぶり
総実労働時間数（全産業）	0.76	4 か月連続	大型小売店販売額(既存店)	-0.76	2 か月ぶり
鉱工業生産指数	0.74	2 か月ぶり	大口電力使用量	-0.50	4 か月ぶり
			有効求人数（全数）	-0.50	4 か月ぶり
			日銀券月中発行高	-0.03	2 か月ぶり
遅 行 系 列					
勤労者世帯家計消費支出(実質)	1.53	5 か月ぶり	単位労働コスト（製造業）	-1.16	2 か月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	1.08	2 か月ぶり			
青森市消費者物価指数(帰属家賃除く)	0.81	7 か月連続			
1 人平均月間現金給与総額	0.57	2 か月ぶり			
常用雇用指数（製造業）	0.36	2 か月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数(DI)

先行指数 83.3% (2か月連続で50%を上回った)

一致指数 87.5% (8か月ぶりに50%を上回った)

遅行指数 41.7% (2か月連続で50%を下回った)



#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

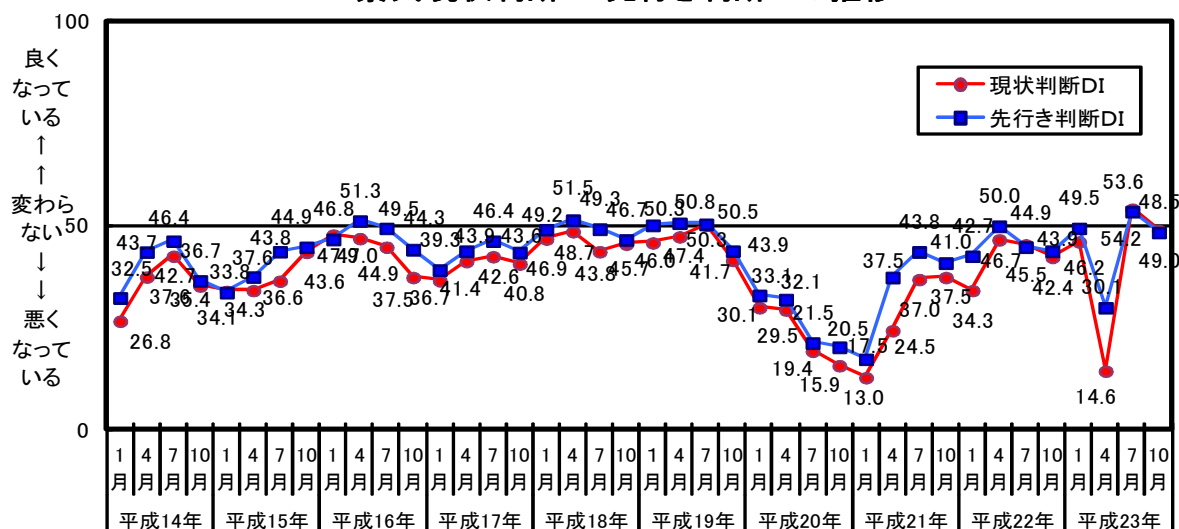
平成23年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月3日～10月18日を調査期間とし、回答率は100%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは49.0で、前期調査を5.2ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは48.5で、前期調査を5.1ポイント下回った。

10月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに、2期ぶりに横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

**動** 前期調査と比べると、「やや良くなっている」が13.6ポイント減少、「変わらない」が12.7ポイント増加したことにより、全体では5.2ポイント下降の49.0となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

判断理由をみると、震災の影響で消費を控える動きを感じる、消費拡大につながる要素がない、円高の影響で輸出関係の受注が減少しているという声があった。一方で、観光客が増えている、復興にむけて産業が動き出しているという声もあった。

**向** 前期調査と比べて、全地区でポイントが減少した。県南地区では景気の横ばいを示す50を上回ったが、その他の地区では50を下回った。

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

**動** 前期調査と比べると、「やや良くなる」が14.4ポイント減少し、「変わらない」が12.2ポイント増加したことにより、全体では5.1ポイント下降の48.5となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

判断理由を見ると、冬季は観光客が少なくなる、税負担増等への対処により支出を控える傾向が予想されるという声があった。一方で、震災後の復興工事がまだ続く、年末商戦に期待するという声もあった。

**向** 前期調査と比べて、全地区でポイントが減少した。県南地区では景気の横ばいを示す50を上回ったが、その他の地区では50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎交通インフラの復旧。震災による東北エリアへの旅行需要特需(観光型ホテル・旅館=県南)
- 今迄が良くなかったが、9月、10月と昨年並の集客と売上高になってます。(衣料専門店=県南)
- りんごの単価も現状では上向に移行しているし、旅行客も増加の傾向にある。(経営コンサルタント=津軽)
- 駅前地区を中心に、飲食店などはまずまず好調だが、全体を見回せば、まだまだの状況(商店街=東青)
- 6月頃になり、大震災の自粛ムードが解消され始めたことで、良い方向に向かうのではないかと期待したが、その後は足踏み状態が続いている感じです。(旅行代理店=県南)
- お客様の買い物のしかたの様子は変わった様子が見られない為、財布のひもは固いままですが、更に締めている感じはしないです。(一般小売店=下北)
- 見積件数、受注件数等、増えていない。(広告・デザイン=津軽)
- △円高ユーロ安により、ヨーロッパ向け輸出品の受注が急減した。国内向けは地震で遅れた分の回復期にあり、堅調な生産となっている。(電気機械製造=県南)
- △社員の後任枠等を、パート化したりしている企業、また委託・請負いにし、人件費の削減が一層進んでいる。(人材派遣=東青)
- ×前よりも、静かで人の流れもなくなっている。(スナック=津軽)

● 3か月後の景気の先行き判断理由

- 生鮮品の価格が少しずつ安定してくると考える。また、節電の冬に向けて、ウォームビズやECO対応の衣料品(肌着、洋品)の動きが良くなってくると考える為。(百貨店=県南)
- 飲食業としては、年末、年始なので、3カ月先は現状よりは良くなってると思います。(スナック=下北)
- 今後は、寒くなっていくので観光客も少なくなりますし、まだまだ自粛ムードが抜けきれていないので変わらないと思います。(タクシー=東青)
- 弘前市中心街(地元百貨店をはじめ)の集客力の低下が顕著です。土手町で歩行者を見る事が少ない。(ガソリンスタンド=津軽)
- 現在の状況はしばらく続くのではないか。消費は伸びず雇用もきびしい状況にある。(経営コンサルタント=東青)
- 欧州の金融不安や円高など世界経済の不透明感が景気の足かせになっている。(紙・パルプ製造=県南)
- 7～9月は震災直後から大分持ち直してはきたが、被災地の復旧状況、福島原発なども収束しない中で、好転する材料がないため。(新聞社求人広告=津軽)
- △冬場は夏のように盛り上がるイベントも少なく、集客も大変だと思う。(観光名所等=東青)
- △野菜等が高騰して家計が大変で、外食等を控え来店動機が低下しているように思われる。(一般飲食店=県南)
- ×税負担増などへの対処により支出を抑える傾向が予想される。(コンビニ=津軽)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」